２０１４．８．３　　平和の砌（こだま）鹿沼１００人委員会　設立総会
呼びかけ人代表挨拶　　元衆議院議員、栃木県現代詩人会理事　小林守

なにかとお忙しいなか、平和の砌鹿沼１００人委員会の設立に賛同をいただき、お集まりいただきました、多勢の皆さんに心から敬意を表し感謝いたします。呼びかけ人は羽石さんと私と言うことですが、とりあえず代表して一言ご挨拶いたします。

「戦後レジームからの脱却」を掲げる安倍政権は、何をやろうとし、日本をどういう国にしようとしているでしょうか。簡単に言ってしまえば、アメリカと一緒に戦争のできる国になり、グローバル経済競争のなかで、アメリカの番頭格として覇権国の一員にあやかろうとしているのだと思います。

教育基本法に愛国心教育をうたい、道徳教育を必修化しました。中国や韓国の強い反発を招きながらも靖国神社参拝を正当化し、国防意識を涵養し、個人の人格の完成よりも国家主義教育を優先しています。さらに教育委員会制度を改変し、教育の中立性や独自性を奪い、一般行政権力のもとに統括することをめざしています。

また昨年１２月、特定秘密保護法を強行して制定しました。これは日米同盟を強化し、アメリカとの軍事的な一体化を進めるための情報の共有化のためと言われていますが、防衛・外交・テロ・スパイにかかる情報を権力に都合よく特定し、それを取材したり漏洩した者を厳罰に処すということですが、これは新たな治安維持法です。この国民の知る権利を不当に制限する法律がこの１２月に施行されます。これは言論の自由、報道・出版の自由など、民主主義の根幹にかかわることで、これが恣意的に拡大運用されますと、この国は強権に抑圧された閉塞社会、異質なものを排除する社会、そして国民を分断する密告社会となるでしょう。それは恐るべき戦時体制ではないでしょうか。

自民党の「日本国憲法改正草案」を読めば、安倍政権がめざす国の姿がよく見えてきます。２０世紀人類の英知の結晶といわれ、２１世紀人類存続へのはなむけとしての現行日本国憲法は、「法の支配する世界」のトップレベルの規範であろうと思います。

しかし、自民党の「憲法改正草案」は、現行憲法の基本理念である、主権在民（国民主権）・平和主義（戦争の放棄）・基本的人権の尊重などを、世界の政治的現実に合わせて変質させ、個人よりも国家、公益のため基本的人権の制限、戦争放棄（専守防衛）から集団的自衛権の拡張による他国への武力行使ができる国（戦争をする国）をめざしています。世界の現実を日本国憲法の理念に合わせていくように世界に貢献することが日本のアイデンテティーだろうと思いますが、安倍政権の「積極的平和主義」は「正義」の戦争観に立ち、「戦争は犯罪である」とする、２０世紀人類が到達した世界の英知を、押しつけられたものとして拒否しています。

今年の７月１日、憲法改正には時間がかかり過ぎると読んだ安倍政権は、立憲主義を無視して、解釈改憲の手法で国民や国会を無視し、集団的自衛権行使容認の閣議決定をしました。来年の通常国会で自衛隊法の改正など関係法を成立させようとしています。そ

うなると、憲法９条の外堀内堀は埋められ、９条は完全に有名無実化することになります。何ということでしょうか。まさに戦時体制の出来上がりでしょう。

また、１０万人以上の人が、ふるさとの家や山河を奪われ、将来の展望も開けず、避難生活をよぎなくされているというのに、誰も責任を取らず、２０２０年東京オリンピック誘致のためには、「福島第一原発の汚染水は完全にコントロールされている」「世界一安全な日本の原発」などと嘘を言い、鹿児島県川内原発１・２号機、を皮切りに３０キロ圏内の住民の避難計画を自治体の判断に任せ、原発の再稼働を強行し、原発の輸出を進めています。また、防衛装備移転などと言いまわし、世界の死の商人のごとく、武器輸出を進めています。・

このたび栃木県にも塩谷町上寺島の国有林に放射性物質に汚染された指定廃棄物の最終処分場設置が環境省より出されてきましたが、どうなるのでしょうか。もとより、廃炉にした原発の使用済み核燃料・高レベル放射性廃棄物の最終処分の場所も方法もないまま、政府は原発を再稼働していこうとしています。何と言うことでしょう。少なくとも脱原発の方法とスケジュールを明らかにすることが先ではないでしょうか。この完全に行き詰まった問題を場合によっては、安倍政権は戦時体制によって強権的に突破してしまおうと考えているのかとさえ疑ってみなければなりません。政・官・学・業の利権構造国家、“ 原子力ムラ ” の恐ろしい時代になりなした。

しかし、よく考えてみれば、このような事になって来たのは何処に問題があり、だれの責任なのかを含め、まず、それぞれの自分に問わねばならないと思います。

くどく申し上げることはありませんが、戦後民主主義教育で育ち、それを社会理念として生きてきた私たちは、「あの悲惨な戦争を国民はなぜ止められなかったのか」と我々の親の世代に対して投げかけてきました。「とてもそんなことは口にも出せなかった」と言うこともよくわからずに、歴史を無視した憎まれ口をきいたものです。しかし今は、そのくりかえしの始まりではないかと思われます。新たな２１世紀日本の「戦時体制」になりそうです。残念なことですが、こんな危機感をもたざるをえません。わたしは政治からは身を引いたわけですが、この問題は思想（倫理）の問題として知らんぷりは出来ないし、大げさにいえば、「死んでも死にきれない」と言う思いです。全国では、「憲法を破壊する集団的自衛権行使反対・戦争をさせない１０００万人署名運動」が起ちあがり、栃木県でも「戦争をさせない栃木県連絡会議」ができ、この市民運動の鹿沼版が「平和の砌鹿沼１００人委員会」です。特定の政党活動ではなく、広汎な憲法の平和主義を守り抜く国民運動として進めていくことになっています。また、この会は、集団的自衛権行使反対、脱原発、などを当面の課題として取り組んでいきます。もちろんこれは戦後政治の大転換に関わる問題であり、今日の国政の最大課題でありますが、中味はすべての国民のこれからのくらし、思想や文化に関わることであり、平和的生存権、特に次の世代への責任の問題（倫理の問題）でもあります。特に、若い世代の多くの方々の参加を是非お願いしたいと思います。私も老骨に鞭を打って無力でも頑張らなければ相済まぬと思っています。よろしくお願いいたします。少しくどくなりましたが、ご清聴ありがとうございました。